

2．推進地区のバリアの現状と問題点、取り組み課題

2-1．推進地区の概況

推進地区である福崎町福崎ユニバーサル推進地区（ＪＲ福崎駅周辺）は、ＪＲ福崎駅及び交通広場を中心とした駅前ゾーン、県道甘地福崎線及び町道馬田山崎線沿いに広がる商業ゾーン、文化センターやエルデホールなどの公共施設のある公共ゾーンを含み、商業・行政機能が集積しています。

駅前ゾーンは、福崎町の玄関口にふさわしい交通拠点として位置づけられており、県道甘地福崎線、田口福田線及び町道駅高橋線の結節点となっています。併せて、町のシンボルロードとして、駅前広場や都市計画道路福崎駅田原線が都市計画決定されています。

商業ゾーンには、昔からの商店街がありますが、近年、空き店舗の増加が目立ち、衰退傾向にあるため、活性化に向けた取り組みなどの課題を抱えています。

また、公共ゾーンの北西側に隣接した区域では、大規模な民間企業の移転に伴い、跡地の有効利用として、温浴施設や温水プールの立地が計画されており、従来 of 地区の持つ特性に加え、健康増進やレクリエーションといった新たな機能を有した地区となることが期待されています。

そのような中で、本地区の課題としては、

駅前ゾーンでは、ＪＲ福崎駅の駅舎前の広場は狭く、また、前面道路である県道甘地福崎線も狭小であるため、交通安全上危険な状況にあります。特に、通勤通学の時間帯は自動車と歩行者で道路が混雑しているため、駅前広場の整備及び県道甘地福崎線の歩道整備等の安全対策が必要となっています。

福崎駅の構内・外は、一部でバリアフリー対応となっていないため、駅舎の段差解消などの全ての利用者の利便性向上に取り組む必要があります。

商業ゾーンであるＪＲ福崎駅の東側に集積した商業地、商店街は、市川から東側に近年急激に立地された商業施設の影響や、事業者の高齢化などに伴い、閉店する店舗が増加傾向にあります。そこで、町の玄関口としてふさわしい既存商店街の活性化に向けた取り組みを進める必要があります。商業ゾーンを中心とする地域は、店舗や住宅が密集しており、地域内の道路も狭小です。このような状況から平成 16 年には、防災再開発促進地区に指定しました。そこで、住民への防災に対する意識付けを進めるとともに、地区のポテンシャルを十分に引き出す整備に取り組む必要があります。地区内の道路には、狭小な区間や見通しの悪い交差点などの危険箇所も見られるため、地域住民などが連携・協働して取り組む通学児童見守り運動の実施などの安全対策が必要となっています。

2-2．道路等の生活基盤におけるバリアの現状と問題点、取り組み課題

	現状と問題点、整備課題	
<p>幹線道路 （県道甘地福崎線、田口福田線）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県道甘地福崎線は、歩道がなく、両側2m未満（75cm）の路肩のみとなっている。この路肩上にも電柱が立ち、歩行を妨害している箇所も見られる。国道312号との信号交差点（横断歩道部）では、十分な歩行者空間がなく、音響信号が未整備であるなどの問題がある。（写真上） 歩道幅員は、2m未満となっており、主要な交差点などでは余裕のある歩行者空間確保が必要。 電柱等の設置構造物は、歩行者空間確保への配慮が必要。 盲人用音響信号などの整備が必要。 ・JR福崎駅南側の踏切部では、歩行者空間が明確に位置づけられていない。（写真下） 主要な経路（幹線道路等）については、歩行空間を確保するとともに、視覚障害者や車いす利用者等への配慮が必要。 	
<p>幹線道路 （R312～七種橋、福崎駅前～七種橋）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福崎小学校前の区間では歩道（1～2m）が整備されているものの、視覚障害者誘導用ブロック、ガードレールはなく、また、小学校前の横断歩道には信号機、音響信号が未整備であるなどの問題がある。（写真上） ・新町公民館前は歩道がなく、路肩のみとなっている。 視覚障害者誘導用ブロックや盲人用音響信号などの整備が必要。 ・福崎駅前～七種橋の区間では歩道（2m以上）が整備され、視覚障害者誘導用ブロックも整備されている。しかし、一部区間では狭小幅員で歩道未整備で見通しの利かない箇所が見られるなどの問題がある。（写真下） 施設から施設への主要な経路については、連続的に歩道、視覚障害者誘導用ブロックを敷設するなどの整備が必要。 	
<p>地区内生活道路 （主に通学路指定路線）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内のほとんどの街路が歩道未整備である。 ・路肩が設けられているものの、ほとんどの区間が路肩幅員75cm程度である。また、電柱や街路灯が設置され、歩行空間を妨害しているなどの問題がある。（写真上） 歩道設置が難しい場合には、カラー舗装による歩行者空間（通行帯）の明確化や路面標示等による区分といった歩車共存型道路としての対応が必要。 電柱等の設置構造物は、歩行者空間確保への配慮が必要。 ・交差点では、一部見通しの利かない箇所が見られる。 カーブミラーの設置や隅切りを施すなどの歩行者への配慮が必要。 ・JR福崎駅北側の踏切部では、歩行者空間が明確に位置づけられていない。（写真下） 主要な経路（通学路等）については、歩行空間を確保するとともに、視覚障害者や車いす利用者等への配慮が必要。 	


2-3. JR福崎駅駅舎及び駅前広場におけるバリアの現状と問題点、取り組み課題

現状と問題点・課題		
JR 福崎駅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅構内にはスロープ、視覚障害者誘導用ブロックが設置されている。 ・ 駅構内には身障者用トイレ（オストメイト対応）が整備されている。 ・ 下り線方面へのホームへは階段のみの移動経路。 ・ 下り線ホームの待合室入り口は段差がある。（写真上） スロープを設置する、または段差を解消するなど、ホームから待合室への円滑な移動経路の確保が必要。 ・ 駅改札口から駅前広場へは階段のみで、スロープは設置されていない。また、視覚障害者誘導用ブロックも整備されていない。（写真下） スロープ、視覚障害者誘導用ブロックを設置するなど、駅から道路への円滑な移動経路の確保が必要。 	 
公衆トイレ	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR福崎駅前に設置されている公衆トイレには、身障者用トイレ（オストメイト対応）が設置されている。（写真） 駅から連続的な視覚障害者誘導用ブロックの敷設が必要。 いつでも利用可能なように管理することが必要。 	
駅前広場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路から駅前広場への流入口には段差（2cm以上）が見られる。また、横断歩道はあるが、信号機は設置されていない。（写真上） 段差の解消など、円滑な移動経路の確保が必要。 ・ 広場奥には身障者用駐車マスが設置されているが、そこから駅への経路は歩道がなく、視覚障害者誘導用ブロックも整備されていない。（写真下） 連続的な視覚障害者誘導用ブロックの敷設が必要。 ・ 駅前には、周辺の主要な施設などを示すサインや案内表示は整備されていない。 利用者に配慮した案内表示（誘導サイン、音声案内、標識等）の設置が必要。 	 
駅南交通広場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩道や視覚障害者誘導用ブロックが整備されているものの、点字案内や音声案内がないなどの問題もある。（写真） 利用者に配慮した案内表示（誘導サイン、音声案内、標識等）の設置が必要。 	

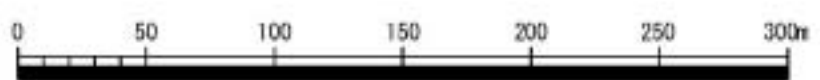
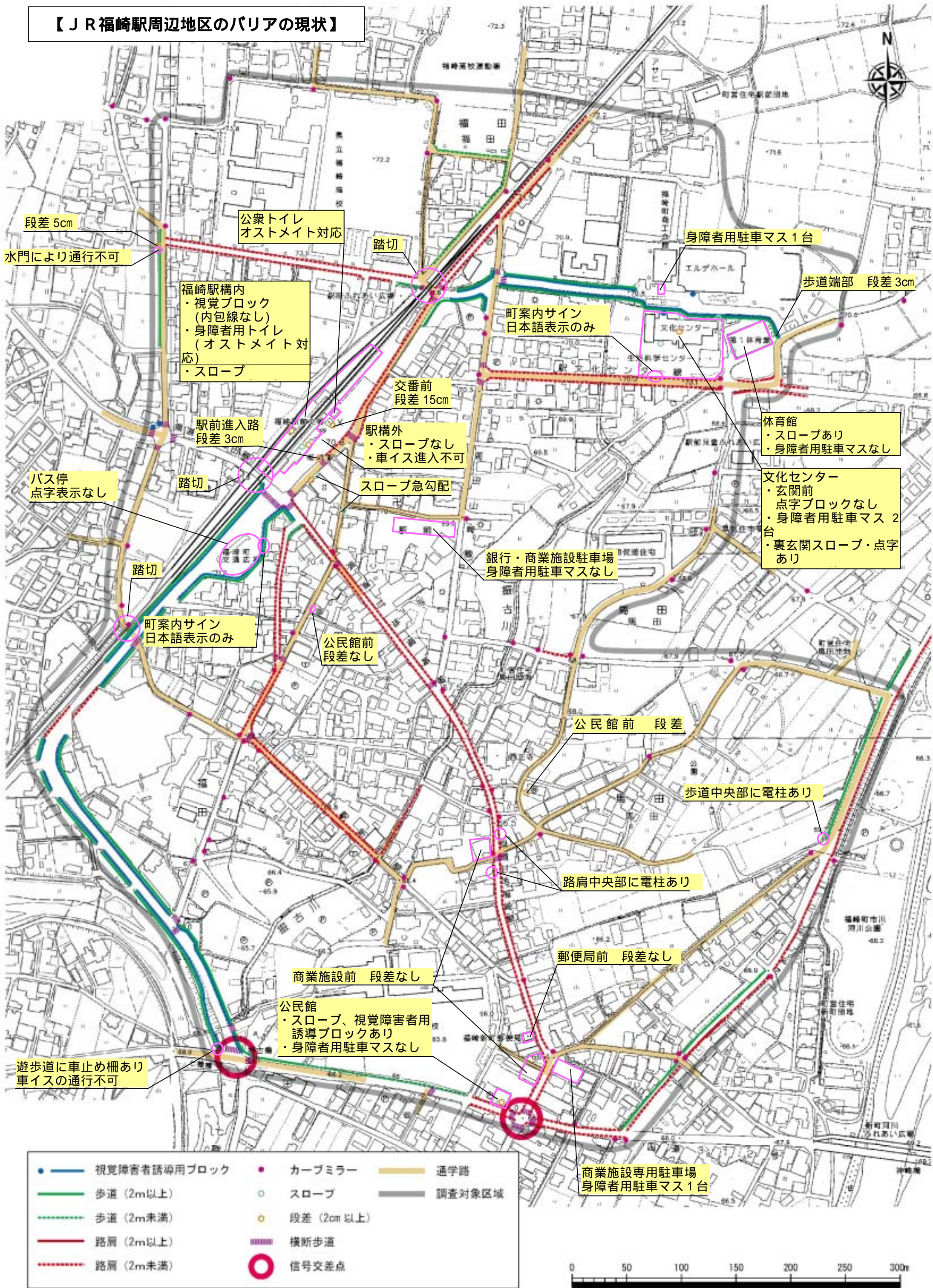
2-4．公共公益施設等におけるバリアの現状と問題点、取り組み課題

	現状と問題点・課題	
エルデホール 文化センター 生活科学センター 体育館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅方面からエルデホール前までには歩道が整備され、視覚障害者誘導用ブロックも整備されている。福崎町商工会館前では身障者用駐車マス（１台）が確保されているが、視覚障害者誘導用ブロックは連続性が途絶えている。（写真上） ・ 文化センターは、建物北側玄関及び南側正面玄関にスロープが設置されているものの、視覚障害者誘導用ブロックは北側玄関のみの設置となっている。（写真中） ・ 身障者用駐車マスは２台分確保されている。 ・ 体育館前の駐車場には、身障者用駐車マスは確保されていない。 多様な来庁者に対応した円滑な移動経路の確保が必要。 十分な身障者用駐車マスの確保が必要。 	
各公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新町公民館は、玄関前に視覚障害者誘導用ブロック、スロープが設置されているが、駐車場には身障者用駐車マスが確保されていない。 十分な身障者用駐車マスの確保が必要。 ・ 馬田公民館の玄関前のアプローチは、段差（７ｃｍ）が生じているなどの問題がある（写真）。 多様な利用者、来訪者に対応した円滑な移動経路の確保が必要。 	
身近な商業施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業施設等の不特定多数の者が利用する施設が見られる。これら施設の玄関前などの移動経路上にはスロープがあるものの、勾配が急であるなどの問題がある。（写真） ・ 一部の商業施設には身障者用駐車マスを確保した駐車場が整備されているが、多くの施設（銀行等）の駐車場には身障者用駐車マスが確保されていない。 十分な身障者用駐車マスの確保が必要。 	

2-5．サイン等案内表示におけるバリアの現状と問題点、取り組み課題

	現状と問題点・課題	
施設、地域の案内表示	<ul style="list-style-type: none"> ・ 案内サインが整備され、ピクトグラム（絵記号）は表示されているものの、言語は日本語のみである。（写真） ・ ＪＲ福崎駅などの地域の玄関口においては施設や地域への案内サイン、誘導サインが十分ではない。 多様な来訪者に対応したサイン整備（点字や音声案内、色調配慮等）の検討が必要。ユニバーサルデザインの観点からは、外国人来訪者にも対応した多言語表記などが必要。 	

【JR福崎駅周辺地区のバリアの現状】



3. 推進地区における既往プロジェクト

ここでは現在、推進地区周辺で進行中のまちづくり、プロジェクトについてその概要を整理把握し、ユニバーサル推進地区事業プランを策定するための基礎的資料とします。

3-1. 防災再開発促進地区の概要

JR福崎駅周辺地域は木造住宅が密集するなど、防災性が低く、街路も狭小のため、平成16年に防災再開発促進地区に指定しました。

今後は、都市計画道路備などの骨格的な基盤を整備し、老朽建物については建て替えを促進するなど、安全で安心な市街地の形成を目指すこととなります。

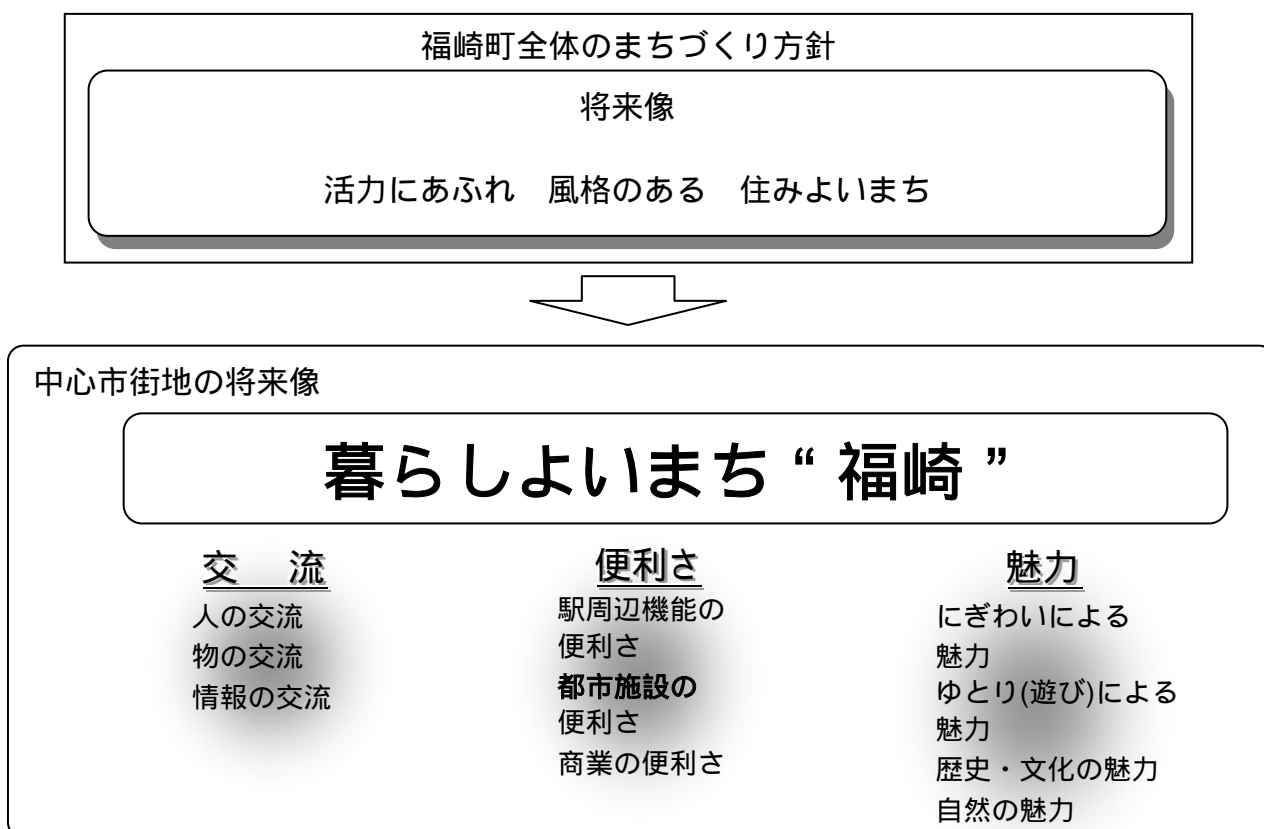
図. 防災再開発促進地区（福崎駅前）

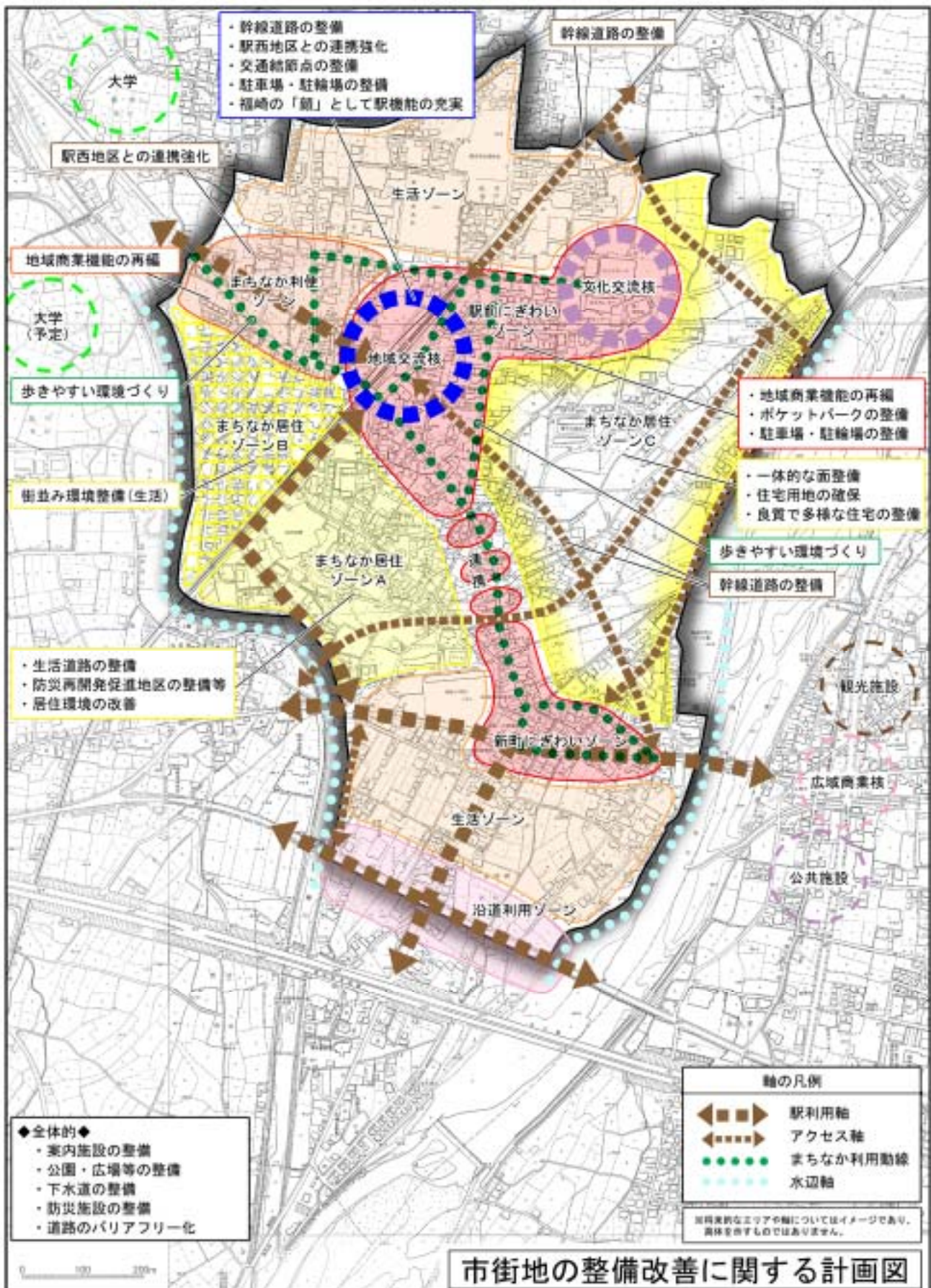


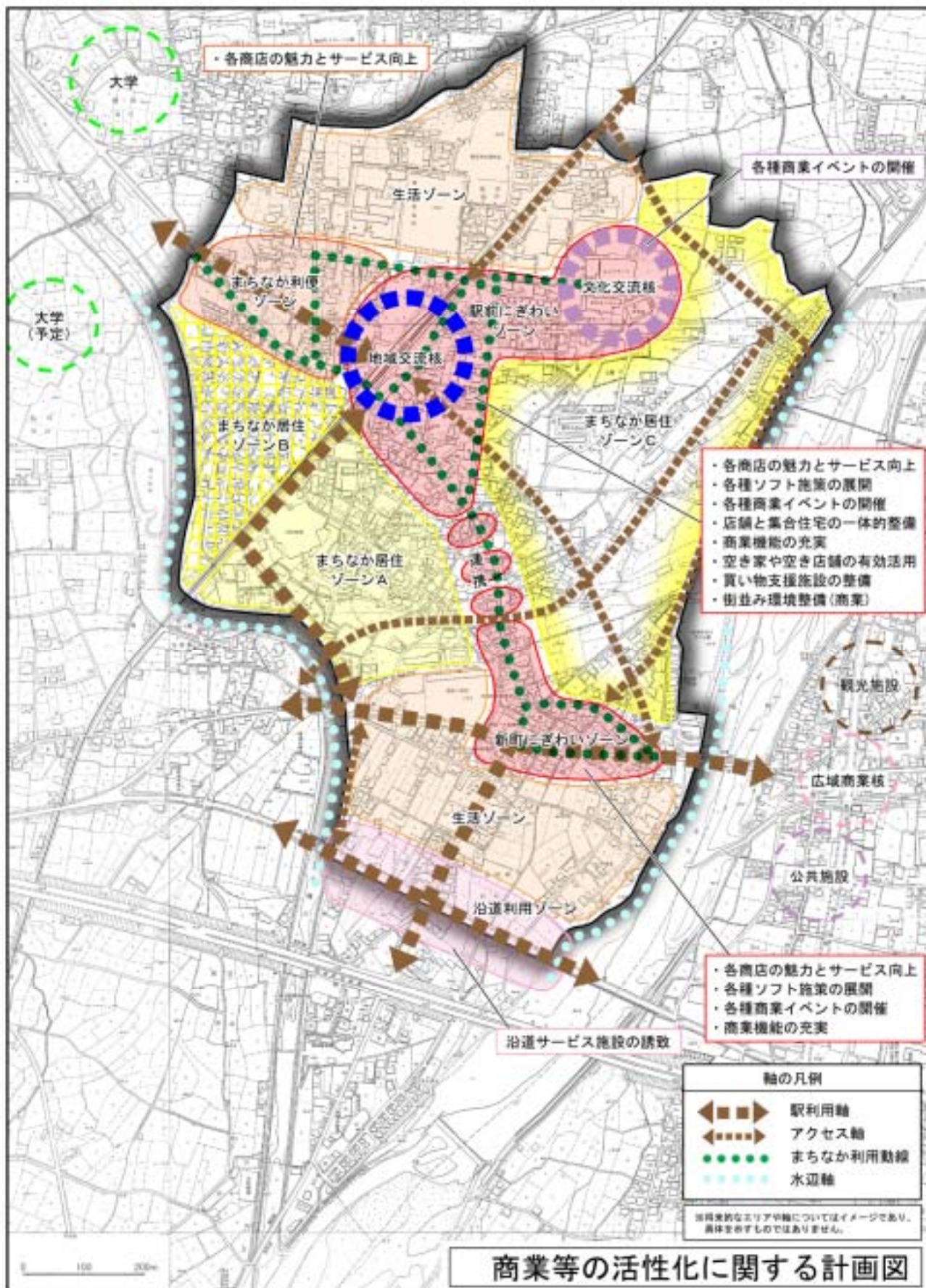
3-2．中心市街地商業等活性化基本計画（案）の概要

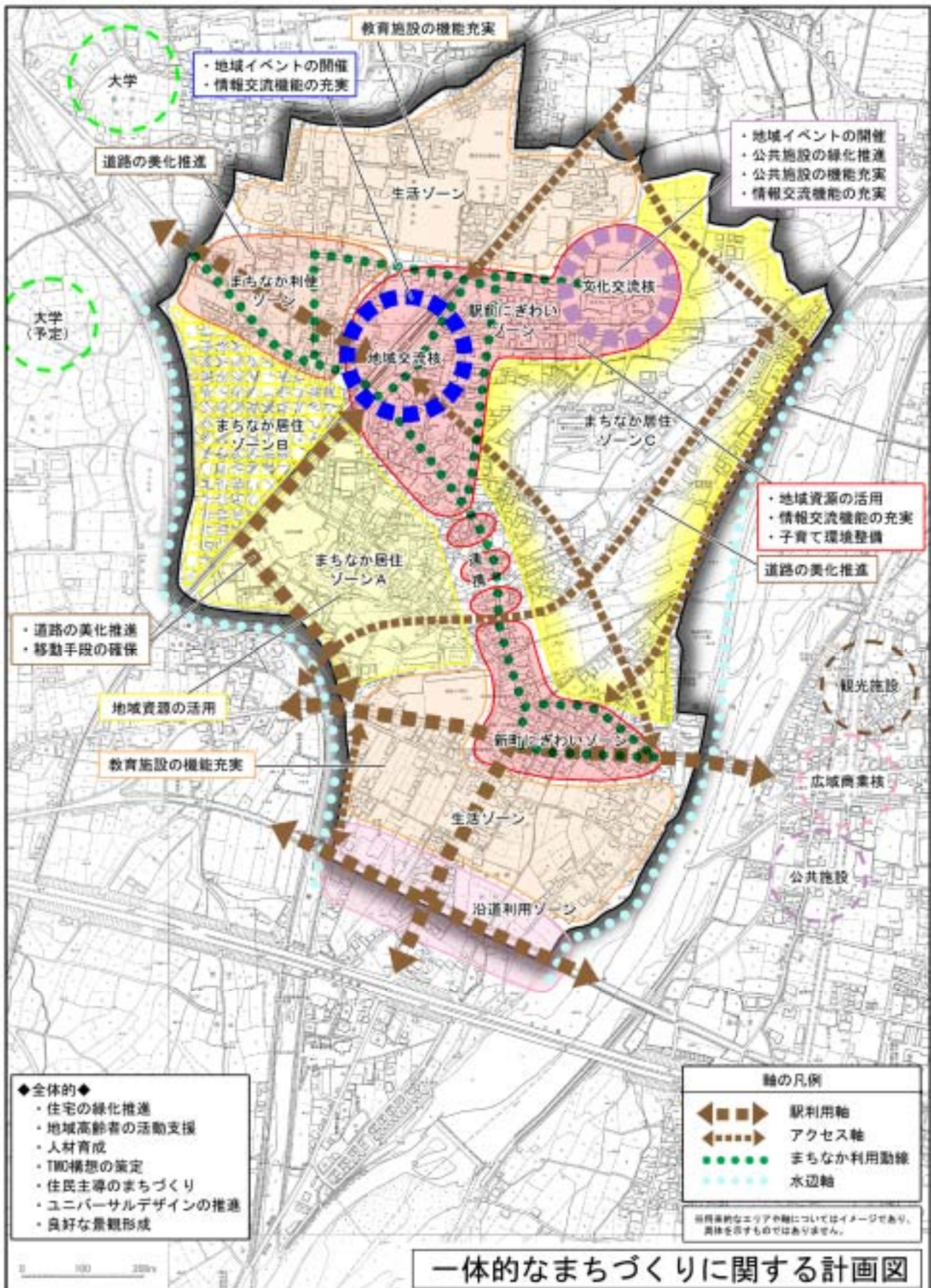
JR福崎駅周辺を中心とする中心市街地地区では、平成16、17年度の2カ年にわたり中心市街地商業等活性化基本計画の検討を行い、市街地の整備改善及び商業の活性化のあり方、方策について住民や事業者の方々とともに立案しました。

この中では、「歩きやすい環境づくり」を進めるほか、「各商店の魅力とサービス向上」によるおもてなしの意識醸成などを進めることとしています。







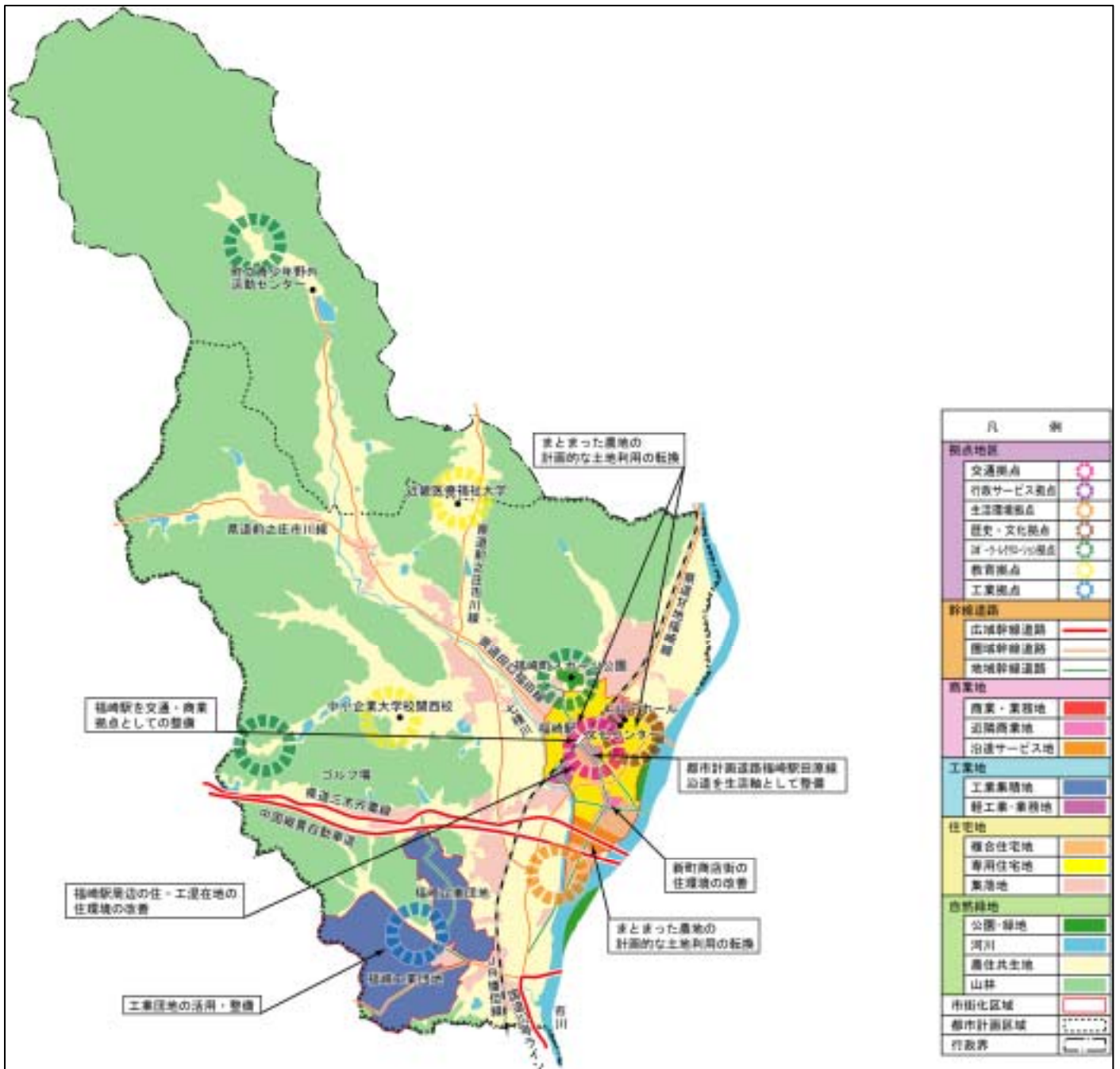


3-3．都市計画マスタープランの概要

福崎町では今年度、都市計画マスタープランを策定しました。

安全・安心なまちづくりの方針では、本事業を位置づけ、「全ての人々が住みやすく、訪れやすいまちとしてユニバーサル社会を実現するための意識づくり・しくみづくり・基盤づくりを推進する」こととしています。

また、地域別構想（西部地域）では、福崎駅周辺地区において、「福崎駅を中心とするユニバーサル社会づくりに向けた取り組みにより、防災対策を含めた住民参画の整備計画づくりに努め、駅前広場とそれに続く都市計画道路福崎駅田原線を福崎町のシンボルロードとして福崎町の玄関にふさわしいまちなみの形成を目指す」こととしています。



図．西部地域のまちづくり方針図

4 . 取り組み方針

4-1 . 計画の理念・基本目標

福崎ユニバーサル推進地区では、年齢、性別、障害、文化などの違いに関わらず全ての人々が、地域の一員として支え合いながら安心して暮らし、自分らしく活動できるユニバーサル社会を実現していくため、共に支え合い、活動することへの意識づくり・しくみづくり・基盤づくりを進めます。

また、本地区は、町の玄関口としてふさわしいまちづくりを推進していく地域であることから、多くの人々にユニバーサル社会づくりへの事業の取り組みやユニバーサル社会への理念をアピールし、大きな効果を上げていくことを目標とします。

さらに、町では従来から都市計画マスタープランをはじめ、福崎駅周辺整備に関する計画があります。これら各種関連計画はユニバーサル社会への理念が合致することから、ユニバーサル推進地区事業プランが、まちの賑わいづくりに寄与し、中心市街地の活性化に繋げていくことも目標とします。

そこで、本地区のユニバーサル社会づくりの全体目標を、以下のように設定します。

福崎ユニバーサル推進地区におけるユニバーサル社会づくりの全体目標

『すべての人が住みやすく、訪れやすいまちづくり』

旧来の中心市街地においてユニバーサル推進地区事業プランを進めることは、福崎町全体のまちづくりの方向性や取り組みに大きく関わることであり、まさにモデルとなります。よって、本計画ではまず、計画として予定されている都市計画道路事業や駅周辺整備などのハード事業に関して、バリアを取り除くことを念頭に置いて進めつつ、これ以外についてはソフトでの対応を行っていきながら、中心市街地としてのまちの魅力の保全・向上、地域住民同士や、地域住民から来訪者に対する人と人のつながりを大切にしたい取り組みを行っていくものとします。

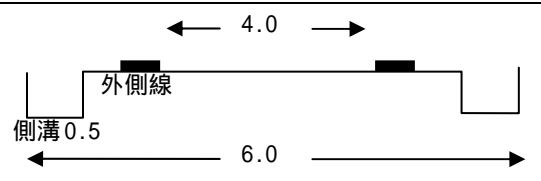
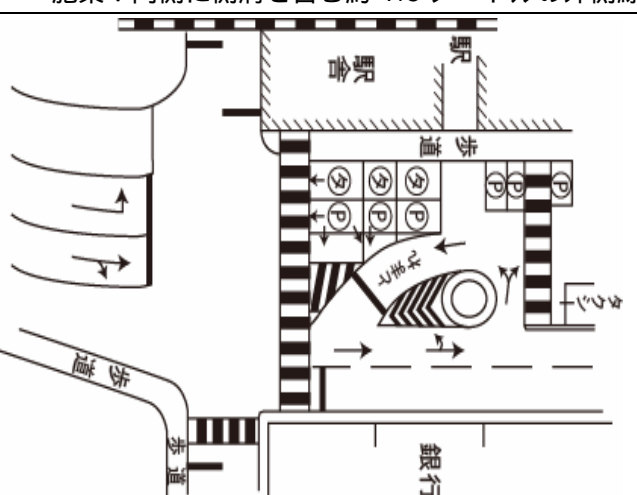

すなわち、ユニバーサル推進地区事業プランの実施により、ハード事業、ソフト事業の両輪による相乗的効果を発揮させ、新たな魅力を有するまちづくり、中心市街地活性化をめざしていくものです。

4-2 . 取り組みの方針

ここでは、推進協議会委員より提言された取り組み内容・方針の概要を整理し、ユニバーサル推進地区事業プランを策定するための基礎的資料とします。

地域における主な課題	提案する実施事業
道路の道路幅が狭く、対面通行すら困難な道路において、交通量が多く危険である。 ・ 県道甘地福崎線 ・ 町道駅高橋線 ・ 町道馬田山崎線	道路拡幅工事の実施により、対面通行を可能とし安全歩道も確保する。 ・ 地権者の移転先確保等要調整が必要となる。 ・ 弊社旧本社跡地の一部を有効活用。 ・ バリアフリー化の推進。
住宅の間の道路幅が狭く、火災や救急、自然災害が発生した場合、緊急自動車が入れない場所が多い。特に火災の場合は、廻りの住宅へ延焼しやすく大火災となりやすい。	上記事業に含めて同様に対応する。
JR 福崎駅前の広場が狭く、特に朝夕のラッシュ時は、歩行者・自転車・自動車・タクシーが入り乱れ事故が発生しやすい状況となっている。	JR 福崎駅を現在地から西側に移動させスペースを確保の上、上記事業に含めて同時に対応し、人・自転車・自動車の流れについて整流化を行い、すべての人が安心して利用できる環境を作る。
福崎駅前の交番について、パトロール等のため不在の時間が多い。特に夜間について警察官不在の場合は、犯罪の起きやすい状況となる。	兵庫県警に陳情を行い、警察官が常に少なくとも一人は常駐し、何かあれば即対応可能とする。(パトカーも 1 台常駐) また、犯罪発生を抑止効果も持たせる。
福崎町の玄関口であり「文化ゾーン」を謳っているが、町民に喜ばれ健康増進を図れる地域活性化の起爆剤となる施設がない。	健康増進・予防医療・予防介護治療・リハビリが可能な温浴施設の設置。(ジム・フィットネスを含む) エルデホール・文化センター・体育館の集まっている文化ゾーン隣接地に設置することにより、施設利用の利便性を図り地域の活性化を行う。 弊社福崎工場跡地で地下ボーリング済の温泉を活用する。 自治体・医師会等との提携を行うとともに、ケアプランナーとの連携も図り、リハビリ施設に「高度機能障害者」「要介護認定者」「特定高齢者」の受け入れを行う。
福崎駅公衆トイレ施設の充実。 現状の施設は、一般および障害者のみ。	・ マタニティー専用トイレの設置。 ・ 防犯装置の設置。
福崎駅待合室の施設拡充。	・ 乳幼児連れおよび妊産婦専用待合室の設置。 ・ オムツ交換・授乳施設の設置。
県道甘地福崎線の JR 福崎駅前付近の道路が狭小であり、危険である。	・ 具体的数値を把握するために交通量調査を行う。 ・ 福崎警察署に周辺の事故の数と内容を照会する。 ・ 車いす利用者、視覚障害者とともに通行し、その意見を聴く。 道路の拡幅を実施する。 JR 福崎駅構内に歩道を設置する。 JR 福崎駅に「西口」を設置し、県道田口福田線と福崎高校正門前道路と連結する。
JR 福崎駅前広場が狭いため朝夕の送り迎えの車で混雑し、危険である。	・ 具体的数値を把握するために交通量調査を行う。 ・ 交通広場のスペースの有効活用のため、JR の協力を得て JR 福崎駅前南側の防火用のスペースを使用可能にする。
JR 福崎駅周辺がバリアフリー化されていない。	JR 福崎駅周辺を大学、社協、企業の協力で車いす利用者、視覚障害者、外国人とともに通行し、その意見を聴き、外国人にも対応した「バリアフリー」「防災」「観光」を一体化したマップを作成する。
駅前商業ゾーンがさびしい。	・ 駅前に交流スペースを設け、外国人にも向けた地域の情報発信地とする。また、同場所で定期的に「朝市」を開催する。(参考：朝来市) ・ 年に一度、旧商店街の一部を車両通行止めにし、「市」もしくは「夜店」等を開催する。 ・ 外国人(主に中国人)を対象にしたイベントを開催する。
その他	ユニバーサル推進地区内における町有施設(空き地も含む)で、有効利用可能な箇所の洗い出しをする。
県道甘地福崎線(駅前～元ふじおか文具店前)の道路幅員が狭く、歩行者(特に高齢者、障害者)の生活道路として機能を果たしにくい状態にある。	当該路線を南行き一方通行とし、車道幅 4m 程度を確保しながら遊歩道を設け、歩行者の生活道路としての機能を持たせ、交通弱者にやさしいまちづくりを推進する。また当該道路沿いの空き地をパークアンドライドのための駐車場として活用し、福崎駅から駐車場までの人の流れを作る。福崎駅から駐車場の間に小型店舗の誘致を促進し、商店街のミニ再開発・活性化を民間資金を利用し、自発的に誘導する。問題点はパークアンドライド用の無料駐車場を設置するために多額の費用がかかる点がある。

道路標識、観光案内標識等のデザインに統一性がなく、見にくい状態にある。	統一デザインを専門家に依頼し、緑を基調とした落ち着いた色調の標識、看板に統一する。
初めて福崎駅前に来た人には、駅前周辺、及び福崎町内のことが不案内である。	みなと銀行横空き地に民間の小売店（コンビニエンスストアのサテライト店程度）を誘致し、そこに役場出張所機能を委託する。主な機能は町内よらず案内所といった感じの、何でも案内・相談できる窓口サービスの提供、また住民票発行等の簡便な住民サービスの提供を主なものとする。新規小売店の誘致が困難であれば、銀行、パン屋等の既存店舗の一角を借用すればどうか。
安全・安心なまちづくり ・ 駅舎 ・ 踏切 ・ 駅前広場 ・ 道路	段差解消・西側に改札 歩道の新設等改良 防火用水の廃止・不法駐車禁止・タクシー乗り場の移設・花壇の新設 県道、町道の早期改良・都市計画道路の早期建設
賑わい活性化 ・ 店舗 ・ 駅前広場 ・ イベント	空き店舗の有効利用・小店舗の集積化・大型店舗の進出促進 イベント開催等有効活用 小・中・高・大学が一体となってイベントを開催する
ソフト事業 ・ 啓発 ・ 自主活動 ・ 実情把握	講演会・研究会の開催 ボランティアグループの結成・活動 対象地域の点検作業の実施
本校では毎月24日（にしの日）とし、生徒会を中心にボランティア活動を実施している。早朝から清掃活動をされておられる企業もある。このような活動は今のところ個別に取り組まれている。夏休みに町をあげてクリーンデーが設けられているのみ。地域住民の心のつながりを深める機会として、各種団体の取り組みをリンクさせる必要があるのではないかと。	毎月29日（ふくの日）に最も近い金曜日の午後3時30分より、小中学校、老人会、婦人会、企業が一堂に福崎駅前を中心とした地域の清掃活動にあたる。参加はあくまでも自由でその日に都合がつく団体のみで参加。地域の心のつながりを深める。なお、実施にあたっては細かな設定は行わず、長続きする活動として取り組む必要がある。
本校では生徒の指導に困難をきたす現状がある。学習への意欲に欠け、授業に参加しない生徒がいるのが実態である。多くの地域の方にサポートしていただき、かつてのような破壊行為等は減ったものの、課題は多く抱えている。	地域の人材を活用できる健全育成センターを設置。課題を抱えた生徒とのかかわりを深め、農作業などの職業体験学習を進める中で、学ぶ意欲を喚起する。 対象となる生徒がいなくても、地域の憩いの場として活用できる施設として設置する必要がある。
地方で大学を有している地域は数少ない。近畿医療福祉大学の学生がさまざまな形でボランティア活動も実施している。昨年度、本校も初めて大学サークルとの交流会を実施し成果をあげた。 地域内には多くの中国研修生も住んでおられるが地域住民と接する機会はほとんどないのが実情である。	大学祭の第二会場としてエルデホール等を利用してもらい、その日に合わせて、地域や行政の「ユニバーサル社会」にかかわるイベントを実施する。小中学生にも弁論大会や合唱の発表などで参加を促したり、中国研修生とのふれあいの場となる企画も含めたりして、「ユニバーサル」な催しとする。
福崎駅前はロータリーもなく、町の玄関としての機能が十分でない。また、大学生、高校生をはじめ多くの利用客があるが、駅への道路を含め狭小である。小中学生の通学にも危険がともなう現状である。	推進地区の核となる事業として駅前周辺の再開発は不可避だと思われる。どのような駅前広場にするかを地域の中で議論を積み上げていく過程も、本事業の趣旨に合致する取り組みだと思われる。 小中学生にも構想を絵に表現するなどの参加方法があり、地域への愛着を深める教育となるとと思われる。
・ 高齢世帯の増加（独居・老人二人暮らし）に伴う災害時の不安 ・ 子育てのしやすい環境	地域コミュニティを強化するための取り組み（世帯MAPづくり、ハザードMAPづくり等）
年齢、性別を超えた地区内交流・まちづくり風土	ユニバーサル社会づくりについての学習会の開催や中学生を交えた意見交換会の開催
駅前の銀行利用者の交通マナー（違法駐車）	徹底した駐車違反の取り締まり
児童通学路通行車両の交通マナー（抜け道として利用・速度超過）	通行禁止時間の設定
夜間の安全	外灯や防犯灯の設置・点検
駅から新町間の防犯灯が暗い	増設及び照度をあげる
駅・文化センター・エルデホールをよく聞かれる	案内板の増設及び設置個所を再考する
冬場カーブミラーが曇って見にくい	ミラーの取り替え
独居老人等については現在活動している範囲で良いのではないかと	
学童関係については、スクールヘルパー等稼働しているので特になし	
障害者の就労・社会参加促進・啓発	JRの元キヨスクを活用した福祉ショップ運営 知的障害者更生施設・精神障害者作業所などに場所を提供して制作品とあわせて飲み物や食べ物を販売する

安全な道の確保	<p>通りやすい裏道づくり 裏道の看板づくり、裏道の整備、裏道マップの作成</p>
障害者に対する理解が低く、対応に不安がある	<p>駅周辺の店舗を全店舗障害者対応可能店にする 知的・精神・身体障害者の理解と対応ができる店員の配置（耳マークのような対応ができる名札を付ける）</p>
認知症に対する理解が低く、対応に不安がある	<p>認知症サポーターとしての勉強をし、各店舗を認知症対応可能店にする</p>
高齢者に対する理解が低く、対応に不安がある	<p>高齢者疑似体験等を通し、高齢者にやさしい店舗・店員について考える高齢者対応優良店にする</p>
文字情報の音声化	<p>掲示物などを音声で伝える工夫をする</p>
音声情報の文字化	<p>放送等の音声情報が文字でも伝わるようにする</p>
表現の簡易化	<p>子どもやお年寄り、障害者でもわかるように、直感的にわかる表現を心がける</p>
外国の方の生活者、旅行者にも配慮する	<p>絵でわかる表現を多用する、多言語の表示にする、対応できる人を明確にする</p>
世代間交流、地域間交流等不特定多数の方が交流する場づくり	<p>文化センター、エルデホール、体育館、駅前広場、バスターミナルなどの場所を活用した、年齢、性別、国籍、居住地等を越えた交流の場づくり（イベント・朝市・歩行者天国等）</p>
自然に親しむ環境づくり（1）	<p>市川河川敷公園の中央の落ち水の利用：スロープを緩やかにして、岩滑りをできるようにし、子どもたちの遊び場を自然の中に創造する。</p>
自然に親しむ環境づくり（2）	<p>レンタサイクルの設置：町内の観光スポットへのアクセスの便をはかり、住みよいまちづくりに貢献することを目指す。</p>
スポーツを通じた体力づくりと環境適応能力の開発（1）	<p>市川河川敷公園における生涯スポーツ場の整備：河川敷公園一角にインライン・スケートリンクを設ける。小学生の頃からインラインスケートに親しみ、足を鍛錬することによって脱車社会を目指す。老後も自力で生活できる力を幼いうちから養う。</p>
スポーツを通じた体力づくりと環境適応能力の開発（2）	<p>市川の月見橋から神崎橋付近におけるカーヌ愛好家によるカーヌ教室のサポート体制づくり：小学生、中学生の頃から水に親しみ、大自然の恵みを体験させる。ふるさとを誇りに思う人づくりを目指す。</p>
<p>駅前から新町地区への商店街は、道路幅員が狭く、拡幅不可能でしかも自転車、歩行者、車両の通行が多い。 迎年福崎駅に進入するバイパス道路ができ、交通弱者である自転車、歩行者中心の道路へ変化させる必要がある。（ラインのみ）</p>	<p>路側帯の幅員を広くし、車の通行の制限をする。 ・現況は側溝 0.5 と外側 0.5</p>  <p>施策：両側に側溝を含む約 1.5 メートルの外側線を引き、車道は 3.0 メートルに縮小する。</p>
<p>福崎駅出口のロータリー化 ・タクシー乗り場の再検討（南向きに） ・駐車場の再検討 ・出入の人、車の整合</p>	
駅前、山崎、福田地区からの通学路の安全対策（ラインのみ）	<p>両側に路側帯の設置。側溝含む 1.0 メートル。</p> 
	<p>福崎駅を生野駅のように東出口、西出口を作り、階段を上下しなくてよいようにしてほしい。 高齢者、身障者、足腰の悪い人等、荷物を持った人、車いすの人たちも階段を上下しなくてもよければ大変便利だと思います。 川西だけのことではありませんが、歩道が福崎郵便局の前のように斜めになっているために、車いすや自転車、歩く人も危ないと思います。 三木山崎線、JA 旬彩蔵より少し西の JR 高架橋の歩道があればよいと思います。</p>

<p>【地区について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落・団体等でテーマをあげて話し合いをする ・新町地区の女性の参画 ・住民に意識を持たせることが重要 ・駅前で商売がしやすくなるような協力が必要 ・地域全体で行動しないと長く続かない ・自治会を超えた横のつながり、辻川など ・地域に対する住民の意識の違い ・駅前住民が事業者からサラリーマン比率増加（活性化の意識が薄くなっている？） ・現在の駅前住民がベッドタウン化しているように思う（活性化より静寂化？） ・外部から商売人を呼んで活性化するにも安全・安心のまちづくりが必要 	
<p>【福崎駅および駅前周辺道路事情・環境について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅が乗降客数のわりに狭く古い、そして暗い印象がある ・福崎駅改装について、5,000人超の利用客がある場合は改装の可能性はある（現在は約4,700人の利用客、改装の要望はしている） ・駅前・新町は道が狭いので一方通行等で車を流しやすくする ・現時点では駅前にはロータリーができて逆に危なくなっているように思う ・播但線電化に伴う高速化で大阪が通勤圏内となっている ・支払日等銀行前に路上駐車が多く危険 ・駅前にある建物がバリアフリー化されていない ・高齢者が野菜づくりされている ・七種川にホタルが増えている、環境は良くなってきているように思う ・小林食品店がなくなると困るといふ高齢者は多い（他に歩いて行ける範囲で店がない） 	
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度に作成した駅前マスタープランはあるが、実際にどの団体が何を実行するかは記載されておらず、進んでいない状態にあり、計画を実行するにはきっちり役割を決定する必要がある 	
	<p>【現在実施されていることについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅構内に福崎高校華道部が生け花を飾っている ・商工会は空き店舗対策の取り組みと駅前ロータリーにイルミネーションを設置
	<p>【実施案について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全マップ、安心マップ等の作成 ・下校時の児童への挨拶、声かけなど ・福崎駅改装の運動 ・福祉が重要なのは当然として、若い人が中心となって活性化できるような内容 ・道の狭さを逆に生かしたまちづくりができないか ・空き倉庫や蔵を利用してライブやギャラリーなどを開催する ・費用をかけずに手間をかけて手づくりでやっていくしかない ・駅前から新町への道でよさこいなど開催してはどうか ・“ユニバーサル社会”づくりということを住民に浸透させて行政を動かすようにする ・商店街とその周辺住宅に電飾を進め、街を明るくする提案をする

4. 取り組みの方針

4-3. 取り組みメニューの抽出

(1) ハード事業の内容

道路

テーマ ・ 箇所	取り組み方針とその対応	実施時期			実施主体		
		1-2 年	5年 以内	5年目 以降	県	町	民間
県道甘地福 崎線の整備 (駅以北)	道路幅員の拡幅。(歩行者スペースの十分な確保) 拡幅整備については、県と町において整備計画を十分に検討 していく。						
県道甘地福 崎線の整備 (駅~新町)	歩行者レーンを1m~1.5m確保し、歩行者優先の道路に変 更する。(外側線を車道側に狭める。) 早急に県及び公安委員会との協議を進める。						
県道甘地福 崎線の一方 通行化	北行き一方通行にし、歩道と車道を完全分離する。 歩行者の安全性に配慮するという観点から、拡幅計画の取り 組み、また、外側線を狭めるといった項目での対応とする。						
都市計画道 路福崎駅田 原線の整備	駅からのシンボルロードとなる都市計画道路の整備を早急に 行う。 駅前広場の整備と併せ、継続した検討事項とする。						
町道駅高橋 線の整備	幅員の拡幅、歩道の設置 平成23年度に整備完了予定						
県道甘地福 崎線と駅高 橋線の交差 点改良	ミラーだけでなく事故防止策を検討する。(新町方面からの進 入の際、市川方面からの車両が見えにくい。) 具体的な安全対策を協議会または専門部会で協議し、方針を 決める。(甘地福崎線の整備と併せて実施。)						
町道馬田山 崎線の整備	歩道の設置等、安全な道路への改良を実施。 具体的な安全対策を協議会または専門部会で協議し、方針を 決める。						
踏切の改良	歩道等の整備、安全対策の実施。 具体的な安全対策を協議会または専門部会で協議し、方針を 決める。						
防犯灯の改 修、増設	照度アップ、設置箇所の増設。 地元自治会で必要箇所の調査を行い、自治会要望で対応。						
カーブミラ ーの清掃	カーブミラーを定期的に清掃することにより、曇り止めにもつ ながり、交通安全を図る。 地区内における各種団体に活動依頼。						
通学路の整 備	通学時間帯による交通規制の実施。通学路には「文」の文字を 表示。 学校及び道路管理者と協議し、必要箇所における表示に取り 組む。						
交通規制の 徹底	一旦停止、速度規制を徹底するため、LED板の埋め込み等を実 施。 具体的な安全対策を協議会または専門部会で協議し、方針を 決める。						

福崎ユニバーサル推進地区事業プラン〔福崎ユニバーサル推進地区（JR福崎駅周辺）〕

『裏道路』の整備	味のある、通しやすい裏道づくり。 密集市街地における防災計画（地区計画）を策定する上で盛り込む。（避難路等）						
----------	---	--	--	--	--	--	--

JR福崎駅舎及び駅前広場

テーマ・箇所	取り組み方針とその対応	実施時期			実施主体		
		1~2年	5年以内	5年目以降	県	町	民間
橋上化駅（自由通路、エレベーター設置）の整備	駅西側との連絡性、駅自体の利便性向上のため、橋上化計画を推進する。 橋上化を視野に入れた駅舎改修計画（自由通路、エレベーター、駅前広場関連）を協議会の中で継続して協議していく。						
西口開札の設置	駅の利便性向上を図る。（高校通学等） 橋上化を視野に入れた駅舎改修計画（自由通路、エレベーター、駅前広場関連）を協議会の中で継続して協議していく。						
駅舎の段差解消	待合室、ホーム待合室の段差解消。 待合室への段差解消策として、自動販売機を移設し、専用スロープを設置。ホーム内待合室の段差については、経費的な面もあり、実施には至っていないが、県の補助メニューを活用し、施設改修を行えるよう働きかけを行う。						
キオスクの再活用、福祉ショップの設置	売店の復活、案内所の設置等を実施し、利便性向上を図る。 今年1月下旬からキオスクを再開。（日曜日以外）						
駅舎内の改修	授乳室、軽食堂等の設置。 JRとの協議の中で設置を働きかける。軽食堂の設置については、駅前商店街にその機能をもたせてはどうか。						
駐車場の整備	・町有地を活用したパークアンドライドの駐車場整備 ・商店街利用者は無料の駐車場を、店舗が協力して設置する。 駅前広場の整備については、都市計画の観点からも長期的な視点に立って検討を進める必要がある。ユニバーサル協議会においても、次年度以降に協議する内容として事業プランにあげる。（専門部会等）						
駅前広場の改善	都市計画に沿った整備を行う。（場合によっては都市計画の変更も検討する。）*ロータリー整備、タクシー乗り場、駅自由通路を含めた計画。 駅前広場の整備については、都市計画の観点からも長期的な視点に立って検討を進める必要がある。ユニバーサル協議会においても、次年度以降に協議する内容として事業プランにあげる。（専門部会等）						
駅前よろず案内所の設置	民間のコンビニを誘致し、観光のみならず“よろずごと”の案内機能を持たせた情報提供の場を設置する。（町民、来訪者の利便性を高める。）						

4. 取り組みの方針

駅前広場の利用制限	通勤、通学時間帯の駅前広場への車輛乗り入れ禁止等の利用制限を検討する。 早急にJRとの協議を行う。						
-----------	--	--	--	--	--	--	--

案内・サイン

テーマ・箇所	取り組み方針とその対応	実施時期			実施主体		
		1~2年	5年以内	5年目以降	県	町	民間
公共案内板の設置（多言語対応）	多文化共生の視点から、数カ国語表記の公共案内板を設置する。 早期の取り組みが可能と考えられる。表示方法等については設置段階での協議事項とする。						
観光案内板の設置	ピクトグラムを用いて、尚かつ、多言語表示の観光案内板を各所に設置する。 早期の取り組みが可能と考えられる。表示方法等については設置段階での協議事項とする。						
音声情報・文字情報案内の導入	必要性の高い箇所での設置を行う。（バス乗り場等） 人的なカバーで対応できる。機械ではなく、人の言葉で助け合うというまちづくりを進めたい。						

その他

テーマ・箇所	取り組み方針とその対応	実施時期			実施主体		
		1~2年	5年以内	5年目以降	県	町	民間
ユニバーサル対応の自動販売機設置・更新	小さな子ども、車イス利用者に優しい自動販売機の設置を推進する。（各店舗の更新時期に合わせた入れ替え等による。） 各設置形態が異なる（レンタル、買い取り、据置）ので、すべてを入れ替えてしまうというのは難しい。入れ替えにはコストがかかるが、それがスタンダードと思えるまちづくりを促すのがユニバーサルの主旨であるので、店舗、地権者、自販機業者への促進を呼びかける。						
健康増進施設の設置 サンライズ跡地の活用	健康増進、医療、介護、リハビリ等が可能な施設を設置。民間による温浴施設等の設置。住民票の発行等、行政機関も併設。 地域住民から見ても、サンライズの動向が期待されるものであり、県道の整備と併せ、次年度以降望むべき施設整備について協議する。						

福崎ユニバーサル推進地区事業プラン〔福崎ユニバーサル推進地区（JR福崎駅周辺）〕

（２）ソフト事業の内容

福祉

テーマ ・ 箇所	取り組み方針とその対応	実施時期			実施主体		
		1~2 年	5年 以内	5年目 以降	県	町	民間
要援護者への声かけ運動、高齢者との交流	<p>ひとり暮らしのお年寄りなど、気軽に声を掛け、地域のイベント等にも参加を促すような、地域住民の意識の向上。</p> <p>・小中学生、ボランティアで定期的な訪問活動を実施 既に各自治会ミニデイサービスなのでお年寄りとのふれあい交流活動を実施している。継続。</p>						
地区計画・防災計画の策定	<p>密集市街地における防災対策としての計画づくりの推進 防災マップの作成。（要援護者対応）</p> <p>・世帯マップを作成。 防災再開発促進地区に指定されたエリアの密集市街地解消策として計画づくりを行う。</p>						
障害者・認知症等に対する理解促進と対応	<p>地区内店舗を障害者対応可能店にする。（対応可能店員の配置） *店員には該当する研修を受講してもらう。 商工会や町、社会福祉協議会から店舗等に働きかけを行う。</p>						
禁煙ゾーンの指定	<p>マナー励行、健康増進のため、歩きタバコ、ポイ捨ての禁止ゾーンを指定する。（指定した場合、エリア内の灰皿撤去 *店先等） 小さな範囲から、マナー励行、啓発活動を推進していく。</p>						

教育

テーマ ・ 箇所	取り組み方針とその対応	実施時期			実施主体		
		1~2 年	5年 以内	5年目 以降	県	町	民間
登下校児童の見守り運動	<p>現在実施中の事業の充実と見直しを検証。 既にスクールヘルパー事業として実施しており、継続・発展に取り組む。</p>						
ユニバーサル学習（地域対象）	<p>青少年健全育成学習会、人権学習会を、ユニバーサルの理念を加えた内容にし、実施する。 各自治会で開催される人権学習会において、ユニバーサルの理念も取り入れた内容にする。</p>						
ユニバーサル学習（学校対象）	<p>ユニバーサル社会に関わる授業を取り入れる。（教材づくり、授業づくり、教職員に対する研修実施） 「ユニバーサル社会づくり」をテーマにした授業の実施。</p>						
学童支援	<p>地域老人会を中心とした学童の見守り活動を推進。（活動状況が明確にわかる工夫を行うことが必要） スクールヘルパー事業と併せた取り組みを実施する。</p>						

4. 取り組みの方針

情報受発信

テーマ ・ 箇所	取り組み方針とその対応	実施時期			実施主体		
		1~2 年	5年 以内	5年目 以降	県	町	民間
講演会の開催	ユニバーサル社会づくりについて住民の意識向上を図るため、講演会を実施する。 秋まつりでの講演会とのタイアップとしてもよいのではないか。						
情報発信	地区概要や事業プランの内容を、広報誌やチラシで周知させる。 早急に取り組む。						
ユニバーサル社会づくり発表会	福崎秋まつりにあわせ、教育機関の児童・生徒・学生による発表会を実施する。 多世代交流、多文化交流を目的とした交流イベントを実施する。（具体的な内容については、次年度以降決定する。）						

イベント

テーマ ・ 箇所	取り組み方針とその対応	実施時期			実施主体		
		1~2 年	5年 以内	5年目 以降	県	町	民間
あらゆる人が参加できるイベントの実施	健全者、障害者、高齢者等のすべての地域住民が参加できるイベントの実施と配慮。 既に様々なイベントにおいて、高齢者、障害者への配慮がなされており、その継続・発展に取り組む。						
交流イベント	・世代、地域、国籍を超えた交流を図ることが出来るイベントの開催 ・大学祭と福崎秋まつりをリンクさせる。 ・企業が中心となり、中国人研修生主催の「福崎中華まつり」の実施。 ・朝市の開催。 多世代交流、多文化交流を目的とした交流イベントを実施する。（具体的な内容については、次年度以降決定する。）						

地域活性化

テーマ ・ 箇所	取り組み方針とその対応	実施時期			実施主体		
		1~2 年	5年 以内	5年目 以降	県	町	民間
商店街活性化	空き店舗を学生や地域団体に貸出し、活動拠点とする。 （個展開催、フリーマーケットなど） 学生の一時的な活動の場として借用することは可能だが、長期にわたる活動拠点とするには、学業にも影響が出る可能性がある。商工会で過去に空き店舗対策事業を行ったが、地権者との関係で頓挫した経緯があるので慎重に取り組む必要がある。学生と地域の密着性を図るには良いこと。						

福崎ユニバーサル推進地区事業プラン〔福崎ユニバーサル推進地区（JR福崎駅周辺）〕

協議・実践 の場づくり	地域リーダーの育成、専門部会の設置。 協議の中での専門部会を設置する。						
店舗育成	地域住民だけでなく、外国人、旅行者にも対応できる店舗育成。 商工会や町から店舗等に働きかけを行う。*福祉項目「障害者、認知症対応可能店」の促進と同じ。						

地域コミュニティ

テーマ ・ 箇所	取り組み方針とその対応	実施時期			実施主体		
		1-2 年	5年 以内	5年目 以降	県	町	民間
声かけしやすい駅づくり	駅員のマインドサービス向上に取り組む。 (定期的な介助技術教育の実施 など) 介助技術研修については、JRで毎年実施しており、よりよいサービスの向上に取り組む。						
クリーン作戦	学校、企業、地域の交流を目的とし、毎月定期的に区域内の清掃活動を行う。(あくまでも無理のない計画をたて、長続きできるようにする。) 継続させるため、2～3ヶ月に1回、29日(フクの日)の直近金曜日の朝に、交流・美化を目的としたクリーン作戦を実施する。						

マナー改善等、その他

テーマ ・ 箇所	取り組み方針とその対応	実施時期			実施主体		
		1-2 年	5年 以内	5年目 以降	県	町	民間
違法駐停車の排除	県道甘地福崎線(駅舎前)の取り締まり強化・徹底。 県警への要望、みなと銀行、町民への啓発活動を実施する。						
駅利用者のマナー改善	駅舎～交通広場の県道横断マナーの改善。(学生など) 近畿医療福祉大学の生徒には、大学内の広報や掲示で注意を呼びかけている。住民への啓発手段として町広報にも掲載する。						
警察官の常駐	パトカーを含め、駅前交番の常駐を要望。犯罪防止、抑止効果と緊急時の迅速対応を可能とする。 県警への要望事項とする。						